

株式会社オークネット様

全システムのデータセンタ移設を半年間でスムーズに完了 BCP強化、IT管理コスト削減、クラウド化に大きな成果

中古車TVオークションで知られる株式会社オークネット（以降、オークネット）は、東日本大震災を契機に、計画中であったシステムのデータセンタ移設を前倒しにすることを決断。2011年末までに、サーバとネットワーク機器を合わせて約500台にのぼる全システムの移設を完了した。移設にあたっては、NTTデータのノウハウとソリューションを活用することで、TVオークションの停止を1日も発生させることなく、短期間かつスムーズな移設に成功。同時に、柔軟なハイブリッドクラウド運用を拡大していく体制も手に入れたのである。

大震災でBCPを緊急見直し 全システムの年内データセンタ移設を決断

1985年、世界初の通信を利用した中古車の電子商取引「TVオークション」を開始したのが、オークネットである。現在は、通信基盤を情報通信からインターネットへと転換し、取扱商品も、中古車、二輪、花き、ブランド品、デジタルデバイスなどへと拡大した。

「車両運搬費や時間拘束を減らし、より効率的な流通を実現するために生み出したのがTVオークションです。人も車も動かさずに「情報」を流通させることで、流通サービスの革新を目指すという目標は、インターネット時代になった現在でも一貫しています」と、総合戦略企画室 執行役員の上野悟氏は語る。

オークネットは、ネットビジネス専業であり、現地にオークション会場を所有し運営する事業者とは積極的に提携してきた。現在では、全国68会場（2012年4月時点）の現車オークションと提携した「ライブオークション」などの多彩なサービスメニュー



株式会社オークネット
執行役員
総合戦略企画室 ジェネラル・マネージャー
上野 悟氏

で、約7,000会員のビジネスを支える。

「情報流通」を企業活動の根幹に据えているだけに、システムおよびデータベースは、同社にとって「事業の生命線」だ。BCP（事業継続計画）には2005年ごろから取り組んできた。

さらに2010年には、本社ビルに設置しているサーバやネットワーク機器をデータセンタへ移設するとともに、既存システムをクラウドへ移行し、「持たざる経営」を目指すという方針も定めた。

「ただし、Webサービスなど仮想化しやすいシステムはパブリッククラウドを使い、データベースなど仮想化したくないものはプライベートクラウド上に置き、しかも両者をシームレスに連携させて使うハイブリッドクラウド運用を考えていたため、適合するサービスがなかなか見つかりませんでした」と、IT開発部門 執行役員 天野保男氏は語る。

2010年よりクラウド化の検討を重ねてきたなか、2011年3月11日、東日本大震災が発生した。

すべての重要なシステムが設置されている本社ビルは、都内のオフィスビルであり、自家発電設備を備えていない。システムに損傷はなかったが、計画停電が実施されれば、オークションを停止するしかないという危機的な状況に追い込まれた。

「いままでは、停電があっても1時間以内に回復するものだという前提でBCPを考え、実行してきました」と上野氏。ところが、大規模災害は2次災害を誘発し、被害は広域かつ長期間にわたって拡大を続けるのだ。

「オークネットは、ネットビジネス専業ですから、毎日10億円規模の取引が動いているシステムを止めたりすれば、お客様に大変なご迷惑をお掛けすることになり、その信用失墜の度合いは計り知れない」と上野氏は厳しい表情で語る。

2011年3月上旬すぐに、データセンタ移設の計

株式会社オークネット

本 社	東京都千代田区三番町8番1
設 立	1984年3月9日
資 本 金 等	40億4,450万0,000円(2012年3月31日現在)
従 業 員 数	281名(2012年3月31日現在)
事 業 概 要	情報通信を使ったオークションのバイオニア。「本物主義」という企業理念を掲げ、査定のプロによる厳格な検査情報を提供することでも定評があり、27年以上にわたって蓄積してきた電子商取引運営ノウハウとあいまって、会員企業から厚い信頼を得ている。
U R L	http://www.aucnet.co.jp/

画を大きく前倒しして、2011年内にシステムの移設を完了するという方針がトップダウンで決定された。

BCP、データセンタ移設、クラウド化 さまざまな課題へ包括的に対応

緊急移設にあたっては、NTTデータの提案を採用した。

最大の評価ポイントは、NTTデータが単なるデータセンタ事業者ではなく、総合的なITベンダーであることだ。BCP、データセンタ移設、クラウド化という進行中であったさまざまな課題へ包括的に対応し、総合的な解決策を示すことができたのである。

クラウドのサービスも充実していた。

NTTデータは、次世代データセンタソリューション「グリーンデータセンタ[®]」ブランドのもと、「共通基盤ITサービスACORE」を提供しており、さまざまなニーズに対応するITインフラを高品質、低コストで構築できるクラウド基盤を確立している。「既存システムをそのまま使いながら、短期間でデータセンタ移設を完了させ、その後、段階を踏んで、ハイブリッドクラウドへビジネスを完全に移行させる」（天野氏）というオークネットの計画へも柔軟に対応できた。

「他社のサービスは、パブリックとプライベートのメニューが独立していて、相互に連携させるには制約条件が多すぎました。有機的なハイブリッドクラウド運用が、いますぐにできるのが、NTTデータのソリューションだったのです」と天野氏は語る。

「共通基盤ITサービスACORE」の中核となるデータセンタは、地盤強固な東京都三鷹市に立

地している。サーバとネットワーク機器を合わせて約 500 台を短時間で物理的に移動させるにあたって、1時間内で移動可能な立地でもあった。

オークネットが、いかにデータセンタ選定およびBCPを重視したかは、藤崎清孝代表取締役社長以下、役員全員が三鷹市のデータセンタを現地検分したことでわかる。

「自家発電設備は特に入念に確認しました。発電機が冗長化されているうえに、燃料供給ルートもしっかり確保されており、停電が起きてもシステム稼働を現環境で 60 時間維持できる点をチェックしました」と天野氏。

オークネットの経営陣は、通信の安全性確保への要求もきわめて高かった。

NTT データのデータセンタは、建屋へのネットワーク引き込み経路が「洞道」(とうどう)と呼ばれる地下トンネルで守られており、共同溝を用いる通常の建屋に比べて、ネットワークインフラが損傷する危険性がきわめて少ない。洞道は NTT が施設したものであり、こうした NTT グループならではの通信インフラの強みも高く評価されたのである。

オークションを1日も停止させることなくスムーズな移設に成功

オークネットのデータセンタ移設は、2011年6月から12月にかけて、4つのグループに分けて実施された。

「44もあるシステムの重要度と相互関連性を分析したうえで、重要なシステムから優先的に移しました。最も気がついたのは、『全国 68ヶ所のオークション会場に100台の中継PCが設置されている』というネットワーク環境を維持しながら、システムを順次切り替えていくこと。移設に向けての計画立案から、実際の作業管理まで、NTT データが実に緻

密にやってくれました」と天野氏は言う。

1 台のハードウェアも故障することなく、また、オークションを1日も止めることなく移設は完了した。夜 22～23時にオークションが終了してから、解体・移動・設置接続・テストを行い、翌朝のシステム稼働開始をまったく遅らせることなく、作業完了させる日々を重ねたのである。

オークネットはネットビジネス事業者であるだけに、システム移設の間にも、立ち上げなければならない新サービスがいくつか発生した。これらは、国際 Web サービスや携帯サービス関連であったため、「共通基盤 IT サービス ACORE」のパブリッククラウドをIaaS利用する形で、早期にシステムを立ち上げることができた。

「NTT データは、確かな仮想化技術をベースに、システムの重要性の切り分けから、効果的な移設計画立案、実際の移設の遂行、そして、クラウドの早期立ち上げまで、ワンストップで総合的にコーディネートしてくれました」と天野氏は評価する。

データセンタ移設で電気代が40%削減サーバ収容ラック数も3割以上減少

データセンタ移設を完了して、オークネットのBCP体制は一段と強化された。データセンタの建屋そのものが堅牢であるうえに、長時間の停電にも耐えられ、通信インフラの可用性も高い。さらに、非常時には全国6支社のどこからでも、オークションシステムのオペレーションを維持できる体制が整ったのである。

また、IT の管理工数およびコストは大幅に低減された。

「本社ビルの電気代が 40%削減できました。ネットワークも整理されシンプルになって、管理しやすくなりました」と天野氏は語る。

移設前には 60～70 ラックを占めていたサーバ



株式会社オークネット
執行役員
IT開発部門 ジェネラル・マネージャー
天野 保男氏

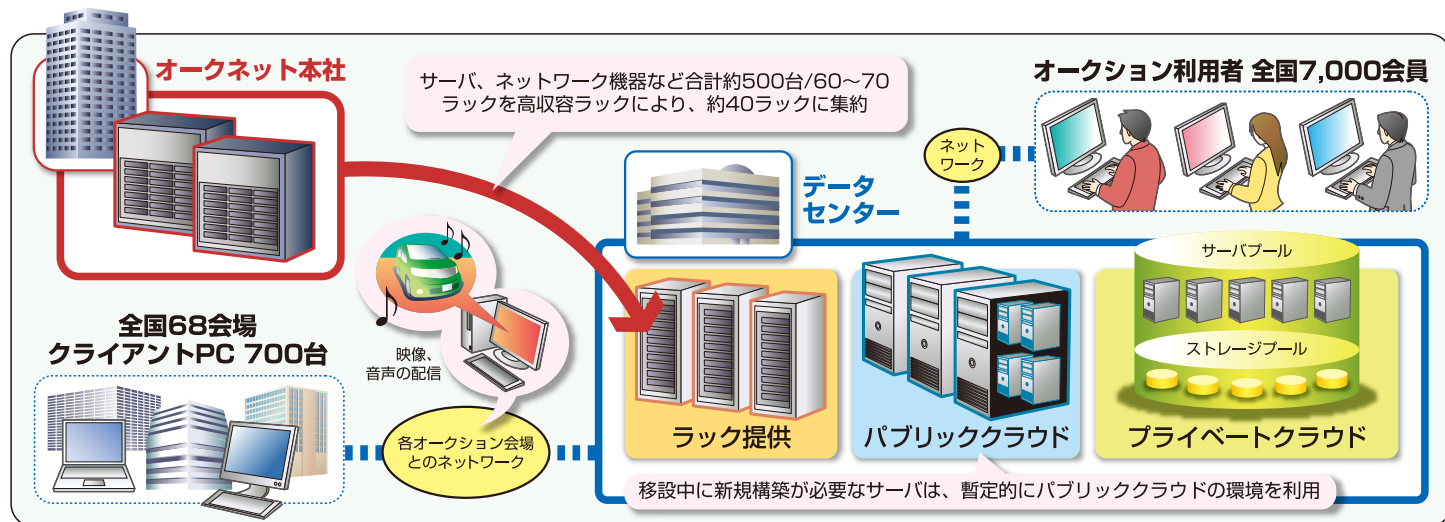
群は、NTT データの「高収容ラック設計」手法の適用により、電源の冗長確保を行き届かせたうえで、わずか 40 ラックに収容された。データセンタの利用スペース極小化とコスト削減にも寄与したのである。

クラウド利用が始まり、「持たざる経営」へ歩み出したという成果も大きい。

「新システム立ち上げ時はもちろん、老朽化したハードウェアを更新するたびに、クラウド化を実施していき、最終的に全システムをクラウドへ移行します。したがってこれからは、サーバなどの購入は不要になります。削減できたハードウェアの購入・維持コストは、新サービスの積極的な立ち上げのほうへ振り向けていきたい」と天野氏は意欲的に語る。

「NTT データは、われわれの生命線であるシステムやデータベースを預けることのできる、信頼のおけるビジネスのパートナーです」と上野氏は語る。

海外進出や新サービス創出など、今後もさまざまな挑戦を続けていくオークネット。ビジネスパートナーである NTT データには、同社ビジネスのより包括的なサポートが期待されている。



データセンタへのシステム移設により、「BCP強化」「本社ビルの電気代40%削減をはじめとするITの維持管理コスト削減」「ハイブリッドクラウド利用のスタート」という大きな成果があった。移設途中にパブリッククラウド上に構築した新システムも、元データは既存データベースシステムから持ってきており、ハイブリッドクラウドの一種といえる。大規模なシステム移設をしながら、併行して、ハイブリッドクラウドの構築テストまで行えたというわけだ。

今後は、関西などにバックアップ用データセンタを設置してディザスタリカバリの体制を整えたり、海外ビジネスでもデータセンタを活用して効率を上げたりする計画である。

株式会社NTTデータ

ビジネスソリューション事業本部

データセンタビジネスユニット

営業統括部 営業担当

TEL.050-5546-8622(則包、吉田)

<http://www.nttdata.co.jp/services/casestudy/> (お客様事例)